



カトリック麹町教会

# MAGIS

マジス = 「より、もっと、さらに」

教会テーマ

さあ出かけよう 心をつないで イエスとともに ~希望に錨を下ろして~



St Ignatius Catholic Church TOKYO

## 聖年の精神

助任司祭 サトルニノ・オチョア



聖年も後半に入りま  
半に入りました。  
聖年と言  
え、道の  
イメージが胸に浮かんでき  
ます。巡礼を思い起こすか  
らです。  
2025年の聖年は多く  
の人々から愛されたフラン  
シスコ前教皇によって宣言  
され、次の教皇レオ十四世  
の導きによって完成される  
でしょう。

人間には命のある限り歩  
まなければならぬ道があ  
り、教会にも巡礼の道があ  
ります。神の民である教会  
は、旧約聖書に書いてある  
通り、歩んでいる教会です。

主はアブラムに言われた。  
「あなたは生まれ故郷  
父の家を離れて  
わたしが示す地に行きな  
さい。  
わたしはあなたを大いなる  
国民にし

あなたを祝福し、あ  
なたの名を高める  
祝福の源となるよう  
に。  
あなたを祝福する人  
をわたしは祝福し  
あなたは呪う者をわ  
たしは呪う。  
地上の氏族はすべて  
あなたによって祝福に  
入る。」  
アブラムは、主の言葉  
に従って旅立った。  
(創世記12:1-4)

また、モーセの導きによ  
って神の民は、エジプトの奴  
隷生活から離れて、記され  
ているように自由への道に  
入りました。困難があり、  
失敗も沢山ありましたが、  
止まらずに目的地向かっ  
て歩み続けました。

この聖年の精神も、信仰  
の道を絶え間なく歩み続  
けている神の民となる巡礼  
です。

目的地は神の国です。そ  
の神の国は、約束された平  
和と愛の国です。  
神の国に向かつて一緒に  
歩いている教会の導き手は  
誰でしょうか？

ヨハネによる福音書で  
は、はっきり答えが書かれ  
ています。

イエスがトマスに言っ  
ています。

「わたしは道であり、真理  
であり、命である。わたし  
を通らなければ、だれも父  
のもとに行くことができな  
い。あなたがたがわたしを  
知っているなら、わたしの  
父をも知ることになる。」  
(ヨハネ14:6-7)

教会はイエス・キリスト  
によって、イエス・キリスト  
とともに、イエス・キリスト  
のうちに、父である神の家  
に向かつて、希望の道を歩み  
続けるのです。地の果てま  
で。

「神の恵みといつくしみに  
生涯伴われ、わたしはここ  
しえに神の家に生きる。」  
(詩編23:6)



### 教会報 MAGIS10月号

†【聖年】 希望の巡礼者として	P2~3
†【教会学校】 ~夏キャンプ~	P4
† 命を守る行動を一緒に 防災チーム 柴田潔神父	P5
† (教会活動連絡会便り) ~広報連絡会~	P6
† Family of St. Ignatius ~英語圏から~	P6
† (中長期計画策定準備委員会) 発足から半年・中間報告	P7

【10月の共同祈願】

あらゆる形で  
この教会を  
支えてくださっている  
ご高齢の方々に感謝します。  
神様の祝福と恵みが、  
これからも豊かにありますように。

教皇レオ十四世メッセージ

わたしたちは「宣教する教会であり、  
橋を築き、対話を促す教会、  
このサンピエトロ広場のように両翼を広げ、  
わたしたちのいつくしみ、存在、対話への意欲と  
愛を必要としているすべての人を受け入れる、  
つねに開かれている教会」なのです。

\* 2025年5月8日、教皇レオ十四世「最初の祝福」  
\* 教皇庁シノドス事務局『シノドス実施ステージの旅程2025-2028』より



2025年聖年に、東京教区では当教会を含めた15の巡礼教会が指定されています。個人、活動グループや共同体などで、活発に巡礼が行われています。

「キリスト者の人生は、目的的地である主キリストとの出会いを垣間見せてくれるかけがえのない伴侶、すなわち希望を養い強める絶好の機会をも必要とする旅路だということ。希望の巡礼者たちは、聖年の体験を充実させるため、古くからの道や現代の道を歩んで行くはず」（大勅書「希望は欺かない」5）。

2025年聖年を祝い、キリストと出会うため、人々は巡礼へと誘われます。巡礼地はさまざまありますが、今回は、比較的身近な東京教区の巡礼教会を訪れた体験談を共有いただきました。

●日曜入門講座  
ともに祈り

聖霊の息吹を感じて

聖年の今年、日曜入門講

座では指定教会巡礼の企画をしました。ひと月に一カ所で、築地教会・関口教会・調布教会・神田教会に決め、講座が終わってから目標の教会を目指します。教会の最寄りの駅までは電車、駅からは巡礼なので徒歩と思いましたが、予約時間の都合上バス便も使いました。

講座で参加希望者を募ったところ15名の申し込みがありました。その都度変わりました。入門講座なので巡礼経験者も少なく、目的地の教会がどんなところなのか興味津々です。

築地教会は東京で最も古い教会です。資料館では歴史を感じ、鎖国が終わってもキリシタン禁制の高札が揚げられていた時代に宣教を始めた神父様の情熱が伝わってきます。

関口教会は最寄り駅から

長い坂を登って、登りきったところに建つ荘厳な教会です。私たちの祈りが一層深まっていくように感じます。

調布教会は信徒の方々が丁寧実物大の聖骸布で説明して下さいました。イエス様のお苦しみ伝わってくるようです。ヴィンチェンツォ・チャムッティ神父様の資料館と礼拝堂も素晴らしいです。

神田教会では皆で祈った後、一つひとつのステンドグラスの前に立ち聖書の箇所を思い起こし、長い時を過ごしました。この時の参加者は16名で、毎回巡礼後お茶を飲みながら分かち合いをするのが恒例となっていました。予約ができずにいたのですが、たまたまパン屋さんの喫茶店に個室が空いていて、16人全員の席があったことに聖霊の働きを感じました。ご協力いただいた皆様にご感謝致します。

15の巡礼教会

すべてを巡って

私はこれまで聖イグナチオ教会（以下、当教会）を皮切りに松戸教会まで東京大司教区の巡礼教会ハンドブックに載っている15カ所すべての教会に行きました。その日の体調に合わせて当教会の巡礼は主日の日曜日に、他教会への巡礼は平日や土曜日に行きました。当教会から近く最寄り駅やバスの停留所からも近い教会では、それぞれの教会の聖堂で黙想し、お祈りを唱えた後にスタンプを押しました。続けて最初に巡礼した教会から近い別の巡礼教会にも行き同様のことをしました。一方、当教会からも自宅からも遠い教会へは朝早くに自宅を出発してミサにあずかるなど、負担がかからないように工夫しました。

東京大司教区の教会は東京都内に集約されているものと思いましたが、東京都以外にも広がっていると驚くべきことでした。自然豊かな場所があったり、都会の真ん中があったりとそれぞれ

れ違いがありました。当教会の信者さんと偶然再会できた教会、案内係や神父様から親切に対応いただけただけ教会もあり、ゆったりと黙想やお祈りができた点はとても心に残りました。

今回の巡礼は、当教会での母の友人を含めた多くの知人の方々からのお祈りと励ましや応援がありました。昨年9月に帰天する直前まで神に向かう気持ちの後押ししてくれた未信者の父、そして何よりも私にキリスト教信仰への道に進んで欲しいと願って、この教会に連れて来てくれて十数年前に亡くなった母が見守ってくれたおかげで実現できたと思います。そのことに心から感謝して、今後も私の名前にあるような世にキリストの光をもたらす者（光の子）となるよう努めていきたいと思います。

神に感謝！

### ● ジョン・デ・ブリット イングリッシュセンター 聖年を祝う一日

4月5日、ジョン・デ・ブリットイングリッシュセンターのリーダー・奉仕者たち44名は、2025年聖年を祝う一環として、四旬節黙想会を行い、バスで神田（聖フランシスコ・ザビエル）、築地（聖ヨゼフ）、高輪（殉教者の元后）の3教会を巡礼しました。まず午前10時に、ザビエル聖堂でのロバート・キエサ神父による黙想会の講話が始まり、巡礼の旅への準備を整えました。

午後1時30分に聖イグナチオ教会を出発し、ニキル・ジョージ神父とシスターフロール・フロレセが同行して、神田教会、築地教会、そして高輪教会の順番で向かいました。各教会へ向かう途中、シスター・フロールがそれぞれの教会について説明してくれました。到着後、各教会の聖なる扉に入る前に、祈りを捧げ、聖年の公式聖歌を歌いました。聖堂内では、それぞれが祈り、黙想するとともに、神田教会と築地教会でジョージ神父からゆ



▲高輪教会聖堂

るしの秘跡を受ける時間をとった人もいました。各教会を発つ前には、全員で終わりの祈りを捧げました。

築地教会の主任司祭レオ・シヌーマカ神父が私たちを出迎えて、聖なる扉を案内し通してくれました。高輪教会の赤岩聰神父も私たちの来訪を歓迎し、午後6時に捧げられたタミサの主司式を務めてくれました。一日の終わりに、私たちは皆、充実感を覚え、この黙想会と巡礼への参加によって免償を得られたと確信しました。

### ● 水曜入門講座 信徒による講座としての

#### 新たな歩みとともに

およそ四半世紀にわたり

シスター野本佳子が担当してこられた「水曜入門講座」は、この春から信徒による講座として新たにスタートしました。講座としての巡礼も、第一回目はシスターとともに行うことができましたが、第二回目以降は信徒だけで実施しています。大きな変化の時を迎えてもなお、希望をもって歩んでいこうと、心をついに月一回の巡礼を続けています。

第一回目は、関口教会を訪れました。幸いなことに、シスター野本と長年親交のあった小池亮太神父から、直接お話を伺うことができました。教会建築の意味を、実際の構造を目にしたがら理解する貴重な機会となりました。その後、講座で作成した『巡礼企画のためのお祈

り集』を手に、ともに祈りを捧げ、黙想の時を持ちました。

第二回目は築地教会でした。さまざまな展示物に心打たれながら教会内を巡り、その後、シスターに教えていただいた通り、みんなで祈り、黙想し、教会を後にしました。後日、「シスターがいらつしやなくて寂しさはあったけれど、みんなでもに祈ることで心が満たされた」と語る方がいて、これは新たな歩みを始めた私たちに与えられたお恵みであると感じています。

夏場は熱中症を避けるため、一時中断を余儀なくされてしまいました。秋からまた再開したいと願っています。

## 教会学校

## みんなで思いっきり楽しんだ、夏キャンプ！

今年も大勢の子どもたちが参加し、夏キャンプが実施されました。今年度から発足した小学生会は初のキャンプとなり、中学生会と高校生会は合同で行いました。リーダーからの報告をご紹介します。

## ●小学生会

8月19日～21日に小学生会初の夏キャンプを、不二聖心山の家に2泊3日で行いました。小学生会初のキャンプに子どもたち以上にリーダーたちも緊張していました。最近の夏キャンプでは珍しく全日お天気にも恵まれました。BBQ、キャンプファイアや流しそうめんなどイベントも盛りだくさん。子どもたちに感想を聞くと「楽しかったー」という声がたくさん返ってきてうれしく思いました。

例年より参加者が多く、4班に分かれることとなり不安もありましたが、最終日に夏キャンプを通して仲

よくなった子どもたちの姿や笑顔を見て「無事に終えられてよかった」と実感しました。まだ始まったばかりの会ですが、今後も成長できるように努めてまいりますので温かく見守っていただければ幸いです。

## ●中学生会&amp;高校生会

8月22日～24日に行われた中学生会の夏キャンプ、『ホットモットー宣言』が無事に終了しました。今年度は裾野の不二聖心山の家に、高校生会との合同開催という新しい形になり、高校生と交流することで、たくさん刺激を受けながら多くの恵みを分かち合うことができました。

山の自然に包まれた中で味わう温かなミサや、心を一つにするキャンプファイアなど、キャンプならではの特別な体験を通し、参加者にとって実り豊かな時間となりました。

高校生会の夏キャンプは中学生会と合同でのキャンプでしたが、最後の1泊は高校生会のみキャンプとなりました。中学生会と合同の2泊はイベントや食事も

盛り上がり、大変充実したものとなりました。最後の1泊、高校生会だけになった後は空気がガラッと変わり、高校生会独特のゆるやかな雰囲気のもと、のびのびと羽を伸ばした活動となりました。

中学生会、高校生会合同のキャンプはほぼはじめての試みではありましたが、中学生と高校生どちらからも「楽しかった」という声も聞け、リーダー一同ホッとした気持ちで終えることができました。

人が参加し、中には7月から新侍者になった子どももいました。

キャンプ中はミサや授業、イベントではキャンドルにオリジナルの絵や文字を描いたり花火をしました。また、中高生が小学生の面倒をよく見てくれて、年齢を超えた交流が生まれていました。自由時間には、学年の違いを忘れて一緒に笑い合う姿があちこちで見られ、侍者会ならではのあたたかな雰囲気が感じられました。

短い期間ではありましたが、子どもたちと楽しい思い出を作ることができました。ありがとうございました。

## ●侍者会

8月11日～12日にあきる野教会で1泊2日の夏キャンプを実施しました。小学生7人、中高生8人の計15

# 命を守る行動を一緒に

防災チーム 柴田潔神父

## 1. 防災への意識の原点

宮城県石巻市旧大川小  
学校を訪ね、卒業間近のみ  
ずほちゃんを亡くされた佐  
藤敏郎さん(元中学国語教  
諭)のお話を伺ったことが防  
災への意識の原点です。以  
下、佐藤敏郎さんのお話。

だ津波は遠い、見えないけれど「念のために」行動した人はみんな助かっている。

私が教員として一番変わったのは「命をどう見るか?」です。「かけがえのない命」と何度も言ってきましたが、震災後は命が大切だなんてものではなく、頭から足の爪先まで「命」。それまでそう思っていなかった。生徒だと思っていた。私のクラスの生徒。座ってて当たり前の国語の教科書を出している生徒、国語が苦手な生徒、親が給食費を滞納している生徒、と書いていました。でもその前に「命」、「命」がかばんを背負ってくる。「命」が教科書を開いている。そう思うようになりました。「学校に来て」と言うことは、子どもたちに服を着せてご飯を食べさせて「行ってらっしゃい」と言う人がいるということ。それが「命」だと思えます。一つしかない命、それを育てる人がいる。「行ってらっしゃい」「ただいま」…命のやり取りの大切さ。

東日本大震災は辛いだけの過去ではない。「未来」のための「過去」。南海トラフ地震ではとんでもない地震が来る、30数万人が亡くなる予測。津波・地震が来る「未来」は変えられない。でも30数万人が亡くなるという「未来」は変えられる。今、考えて、行動していくことで変えられる。

私たちが想像する「未来」は、ものすごい津波が来ることを想像して、みんなが「念のため」に避難して再会して「良かったね」と抱き合う「未来」。日頃から「念のため」を深めていくこと。

旧大川小学校にいた77人中74名が津波の犠牲になり、先生11名も亡くなった。11人の先生はサボってたわけじゃない。先生たちは抱きしめて、覆いかぶさって、津波に流された。悔しかったはず。でも津波を前に子どもを抱きしめても守れない。親の気持ちで言ったら「救って欲しかった命」。その後悔にしっかりと向き合いたい。

救う条件は揃っていた。

大川小には登れば簡単に助かった山があった。でも命を救うのは、山ではなく、人間の判断と行動。組織としての意思決定ができなかった。目の前に時速60〜80キロの津波が来たら間に合わない。ま

佐藤敏郎さんは涙を浮かべながら「私たちの体験を使ってください」と語られました。きつと「みずほ、お父さんは伝えたいよ」という思いだったでしょう。防災への意識が薄れた時に、佐藤敏郎さんのお話を読み直しています。「命」の大切さを再確認しています。

## 2. 防災チームの歩み

当教会では防災インスタラクターの  
に指  
導いただき、毎月防災チー

のミーティングを重ねています。これまでに主聖堂・マリア聖堂のヘルメットの設置、各室の危険箇所の明示(建物本体は丈夫としてもガラスを含めて後付けしたもの)は落下の危険があるので要注意で、そこから離れることが大切)、災害時用トイレの準備、非常用備蓄の拡充などをしてきました。



▲主聖堂のヘルメット



▲ヘルメットの使い方

9月には防災訓練が行われましたが、地震発生時に身を低くすることと折りたたみヘルメットを被ることに両方ができるように、引き続き努力していきます。

現在は非常事態発生時の初期行動マニュアルの日本語版がまとまり、先唱者、聖堂係が習熟しています。各言語で翻訳をし、水平展開できたらと考えています。

## 3. 協力と意識向上のお願い

大地震発生時は公共交通機関が使えなくなり、復

旧に時間がかかることが予想されます。そうすると、帰宅困難となって教会で寝泊まりすることになります。その時の人数は誰にも分かりません。防災チームのメンバーではとても足りません。医療関係者を含めた防災ボランティアの協力が欠かせません。ボランティアの募集・登録も予定しているので、積極的に申し出てください。

防災は、教会だけのことでありません。家庭で、外出先で、どのようなことが起こるか想定して準備しておくことが大切です。危険箇所を把握し、外出時には、水・少しの食料をバックに携帯することもお勧めです。

あらゆる事態を想定しての準備も難しい。難しいとしても、できることを積み上げていく。そのうちにいざ起きた時にゆとりが生まれる。教会で、家庭で、職場で、できることを積み上げていきましょう。それが「私たちの体験を使ってください」と語る佐藤敏郎さんの願い、みずほちゃんの尊い命の犠牲を生かすことだと思えます。「命を守る行動を一緒に」していきましょう。

# 教会活動連絡会便り

2024年度の「教会活動連絡会議」では、「教会活動連絡会の機能・運営の強化」について、一年をかけて対話を重ねてきました。前回までの新設の連絡会に引き続き、既存の連絡会をご紹介します。

## 広報連絡会

### 開かれた教会を目指して

「広報連絡会」は、教会内外に向けた広報活動を担うグループによって構成されています。キリスト教のこと、教会のことを、どうすればもつと伝えられるのか、小さなことから大きなことまで話し合い、それぞれが日々の活動を行っています。

メンバーは、活動グループである「写真チーム」「ウエルカムテーブル」「教会報マジス」「美術部」、ホームページ・SNS(フェイスブック、インスタグラム、X)・配信・教会案内の担当者です。

美術部は、教会行事のポスター・チラシ、クリスマスカード等を作っています。教会の公式ホームページ・SNSは、対外的な発信を担いま

メンバーを募集しています。興味を持たれた方は、是非ご連絡ください。

## ウエルカムテーブル

2015年に教会正門前での教会案内活動から始まり、2019年に活動グループとして発足。東京教区「ウエルカム・テーブルを考える会」の提言を受けて活動しています。現在は毎週日曜9時半より、10時ミサ後まで正門と主聖堂横のテーブルにて、初めての訪問者や教会に関心のある方をお迎えし、他の活動グループに繋いだり教会内をご案内したりしています。

受洗したばかり・転入したばかりでメンバーになった方もいます。ご興味のある方は、どうぞテーブルにお立ち寄りください。

お待ちしております。

## 写真チーム

教会の広報活動では、各

チームが連携してSNSや各種媒体の運営を行っています。投稿、教会カレンダーやポストカードに使用されている写真は、写真チームが撮影したものです。

現在、写真チームでは

## 写真チーム



since 1998 PHOTO TEAM

洗礼式の個人写真、典礼を中心に行事写真の撮影をしています。募集：一眼レフカメラをお持ちでデジタルデータの受渡しが可能な方



## Family of St. Ignatius

### ～英語圏から～

#### 特別な講座

私たちのところには、次のような質問をする人たちがしばしば現れます。「カトリック教徒になりたいのです。どうしたらいいですか?」「カトリックの教会で結婚したいのですが、相手は特定の宗教を持っていません…」他には、「私たちの出身国は別々ですが、英語が共通の言語です…」と言ってやってくる人たちもいます。

ジョン・デ・ブリット イングリッシュセンターでは、大人向けの入門講座(RCIA: The Rite of Christian Initiation of Adults)が、現在大盛況となっていて、2025年10月から2026年5月の間に結婚を予定している人たちのための結婚準備講座(The Pre-Cana Course)も

併せて設けています。今年を受講生は、日本、フィリピン、中国、ベトナム、インドネシア、イタリア、ナイジェリア、アメリカ、フランス、ギリシャ、メキシコ、そしてインドと、世界各地から集まっています。講座は英語で行われ、通常は土曜日、ときどき水曜日に開かれます。授業方法は、講義形式と個人指導の両方です。

例年に比べて、特に今年は、参加者の数が増えています。最初の面談で、参加者たちの心の扉が、主によって叩かれていることがはっきりと分かりました。皆はそのことに気づき、まだそれが何者によるかは分からずとも、神に引き寄せられているのです。この旅路を参加者たちとともに歩むことは光栄なことであり、私は「聖なる地」に足を踏み入れたような気持ちになっています。

(シスター フロール・フロレセ イエズス孝女会)

# 発足から半年・中間報告

中長期計画策定準備委員会

今年3月11日の主の祝福と恵みを願うミサを最初に、当準備委員会の委員10名は、これまでの信仰生活の経験を踏まえて、おの希望する教会像を分かちあいました。そこから計画策定にふさわしい基本理念や方針となる「ことば」を識別する一方、実際の計画策定委員会に引き継ぐ資料の作成に尽力しているところです。

## ◆基本理念

ミッション2030の実績を基礎的素材とすることを確認しつつも、タイミングよく発行された『シノドス流の教会—交わり、参加、宣教—シノドス最終文章』が描く教会像に学んでいます。「教会をより参加型で宣教的にするため…の、霊的刷新と構造改革の道」を進めていきます。

例えば、ミッション2030と同様、これまでの教会活動の「振り返りの機会を持つ」のですが、本文書は、「かわりの回心」(新たな関係性を生きる)、「道筋についての回心」(意思決定プロセスの整備)、「きづなについての回心」(主イエスとの関係、その教会との関係に根を下ろす)などさまざまな面での回心へと導いています。

また、シノドスと云えば、「ともに歩む」です。当教会の多様性を大事にしながらも、キリストの内に一致しようという希望と期待をこめて、基本理念は「キリストを頭に、ともに歩む教会」としました。

## ◆本格的始動に向けて

この計画の目指す「時」を、2036年カトリック麹町教会の小教区認可100周年に据え、計画策定委員会の取り組みを「麹町教会100周年プラン(愛称:100年プラン)」とします。

現在は、2024年4月28日付で宣教司牧評議会に対してミッション2030小委員会から提出された「2023年6月9日付諮問に対する答申」の中の「10年後の教会の姿とその課題」を素材に、準備委員

の考案も加えた上で、取り上げるべき課題について検討を進めています。

今回は、実質的なパストラルプランと教会運営に関わる施設・財務・デジタル基盤の構築も重要課題として取り込みます。私たちの共同体がシノドス流の教会に近づくために、創意工夫が必要な課題は山積みですが、皆さまのご意見を生かしていきける方途も考慮中です。

その一環として、「ともに歩む教会の祈り」の6カ国語カードの作成・当教会の聖歌集更新・「信仰のしおり」更新の3件については作業に着手しています。

## ◆つながる機会として

100年プランの実現には困難がつきまといまいます。しかし実際は、一人ひとりの小さな奉仕の積み重ねによって近づいていき、皆さまが担ってくださるものが寄り集まって実現していくのでしよう。まずは手の届く人となつがる機会となり、神のみ旨を識別し、実現する教会活動になっていきますよう、どうぞ、ご協力とお祈りを願ひ申し上げます。

## ●宣教司牧評議会からのお知らせ● (9月11日 開催)

1. 教会祭 10月26日(日)  
テーマ: ~ひとつになろう~

11:00 国際ミサ (主聖堂/マリア聖堂/前庭)  
・ひとつに集い、ともに祈りを捧げる「国際ミサ」。  
・10:00(日本語)/12:00(英語)/13:30(スペイン語)/15:00(ベトナム語)の各ミサは当日ありません。

ミサ後~フードコーナー (テレジアホール)  
・各国のお料理、トルテリア、おにぎりなど  
13:00~パフォーマンス (ヨセフホール)  
・いろいろな国の踊りや歌

15:30 リビングロザリー (芝生)

\*皆さま、お誘いあわせのうえ、一緒にお祝いいたしましょう。  
\*詳細は、教会ホームページ、ポスターなどでご確認ください。

2. パントリー1のエアコン設置工事が完了しました。私たちの家である教会の設備を、皆で大切に使い続けられるように、引き続きご協力をお願いいたします。
3. 2025年度クリスマス実行委員会が発足し、準備を進めています。

## ●結婚講座担当者を募集●

当教会で結婚式を希望するカップルは結婚講座(原則2~3カ月で計8~10回)に参加するのが基本方針です。講座担当(司祭のヘルパー)として講座運営のご奉仕をしてくださる方を若干名募集します。推薦も歓迎します。  
**募集要件**  
・結婚講座での奉仕を通じて宣教に協力いただける方。  
・原則、当教会所属の60歳代まででご夫婦揃って、またはどちらかお一人。  
ご希望の方、または推薦される方は教会事務室にてお申し込みください。後日、担当者会事務局より説明会のご案内をいたします。

結婚講座担当者会事務局

## 10月の典礼と行事

最新情報は聖イグナチオ教会ホームページでご確認ください。

1 (水)	『社会問題とカトリック教会の考え 2025年度連続セミナー』 18:30 ヨセフホール シノドスの教会 - 誰も排除されない、誰とも共に歩む教会を目指して - 貧しい人々の叫び声を聴く (シノドス最終文書、8番) - 貧しい人々の声を聴こう - 講師: ホアン・アイダル神父 (イエズス会神学院院長)
3 (金) 初金曜日	祈りの集い 19:00
4 (土)	教勢調査 18:00 ミサ
5 (日) 年間第27主日	教勢調査 日本語ミサと外国語ミサ
8 (水)	傾聴ルーム 11:15 ~ 15:00 ヨセフホール 水曜ティーサロン 12:00ミサ後
12 (日) 年間第28主日	インターナショナルイグナチアンユースデー
15 (水)	クリプタに安置され10月に命日を迎える方々のためのミサ 12:00 『社会問題とカトリック教会の考え 2025年度連続セミナー』 18:30 ヨセフホール シノドスの教会 - 誰も排除されない、誰とも共に歩む教会を目指して - 教会における女性の尊厳と権利 - 叫びが聴こえますか? - 講師: 弘田しずえ氏 (ベリス・メルセス宣教修道女会)
18 (土)	長寿を祝うミサと長寿の集い 12:00 ミサ
19 (日) 年間第29主日	幼児洗礼式 (第2回) 10:00 ミサ <span style="float: right;">世界宣教の日・献金</span>
22 (水)	傾聴ルーム 11:15 ~ 15:00 ヨセフホール 水曜ティーサロン 12:00 ミサ後
26 (日) 年間第30主日	教会祭 11:00 国際ミサ 15:30 リビングロザリー
30 (木)	ヤングオールド映画会 「ナザレのイエス 前編」 13:00 ヨセフホール

\*マジス 11月号は11月9日(日)発行予定です。

主任司祭: 高祖 敏明  
 助任司祭: ボニー・ジェームス  
 グエン・タン・ニャー  
 サトルニノ・オチョア  
 柴田 潔  
 協力司祭: ジェリー・クスマノ  
 ハビエル・ガラルダ  
 グエン・ヴァン・テー  
 関根 悦雄  
 マヌエル・シルゴ  
 神学生: アントニオ・マリオ・ダ・  
 コスタ・ソアレス  
 シスター: マルセラ・ロサス  
 フロール・フロレセ  
 ジェスリン・ブエンディア  
 デイン・グエン・ゴック・  
 トウエン

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

### ミサの時間 Mass

【平日 Weekday】主聖堂 Main Chapel  
 7:00/12:00/18:00  
 【土、日曜日 Saturday & Sunday】主聖堂 Main Chapel  
 土曜 18:00/19:30 (Viêt Nam)  
 日曜 7:00/8:30/10:00/18:00  
 12:00 (English) /13:30 (Español) /  
 15:00 (Viêt Nam)  
 【月の第1日曜日 1st Sunday】  
 Our Lady's Chapel  
 12:30 (Português) /16:00 (Polski)  
 【月の第2第4日曜日 2nd & 4th Sunday】  
 Our Lady's Chapel 16:30 (Indonesian)

『マジス』へのご意見ご要望などのお便りは事務室までお寄せください。

### カトリック麹町教会 (聖イグナチオ教会)

〒102 - 0083  
 千代田区麹町 6 - 5 - 1  
 TEL 03 - 3263 - 4584  
 FAX 03 - 3263 - 4585  
<http://www.ignatius.gr.jp>



Linktree (リンクツリー)  
 リンクツリー (linktree) とは多  
 数のリンクをまとめて表示して  
 いるツールのことです。このQR  
 コードを読み取ると教会ホーム  
 ページ、教会ガイド、Twitter、  
 Facebook、Instagram、  
 YouTube へアクセスできます。